

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移していることなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締めりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、米国、ロシア等で増産が見込まれ、世界全体では前年度より65.4百万トン増加（10.7%）し、676.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で5.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア、カナダ等が良好な天候等を反映して上方修正され、乾燥が続いているオーストラリアが下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より35.4百万トン増加（5.7%）し、654.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で5.1百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシアが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、9.3百万トン増加（8.2%）し、122.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリア、EU等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア、ウクライナ等の輸出量、モロッコ等の輸入量が上方修正され、オーストラリア、アルゼンチンの輸出量、エジプト、インドネシア、アルジェリアの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より21.4百万トン増加（18.1%）し、139.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も21.4%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、カナダ等が上方修正され、中国、オーストラリアで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	596.3	610.9	676.3	5.5	10.7
EU-27	124.9	119.4	147.2	4.0	23.3
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	78.4	-	3.4
米国	49.3	56.2	67.0	-	19.1
ロシア	44.9	49.4	60.0	3.0	21.5
カナダ	25.3	20.1	25.4	0.4	26.7
オーストラリア	10.8	13.0	22.0	▲ 3.0	68.7
消費量	616.9	619.5	654.9	5.1	5.7
うち飼料用	105.9	95.3	124.5	4.7	30.6
EU-27	125.5	118.1	132.5	1.5	12.2
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.9	77.6	-	2.3
ロシア	36.4	37.7	41.5	1.5	10.1
米国	31.0	29.0	35.2	-	21.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.2	113.6	122.9	1.6	8.2
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.6	16.5	17.5	0.5	6.1
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	▲ 1.0	87.4
EU-27	13.9	12.0	18.0	2.5	50.0
ロシア	10.8	12.2	14.0	0.5	14.6
アルゼンチン	10.5	10.0	7.5	▲ 1.0	▲ 25.0
ウクライナ	3.4	1.2	9.0	0.5	625.8
(輸入)					
エジプト	7.8	7.3	7.5	▲ 0.3	2.7
ブラジル	7.8	7.0	7.0	-	0.0
アルジェリア	5.5	4.9	5.5	▲ 0.1	12.7
インドネシア	5.0	5.6	5.3	▲ 0.3	▲ 4.9
日本	5.5	5.7	5.7	0.2	▲ 0.8
EU-27	5.1	7.0	5.0	-	▲ 28.6
モロッコ	2.4	1.8	4.7	0.7	161.0
期末在庫量	127.1	118.5	139.9	3.7	18.1
中国	38.5	41.5	46.6	▲ 0.2	12.1
米国	12.4	8.3	15.6	-	87.8
EU-27	14.0	10.3	12.0	0.0	16.4
オーストラリア	4.4	3.9	5.7	▲ 2.0	48.4
インド	4.5	6.4	7.2	-	11.7
ロシア	2.4	2.3	7.2	0.6	213.0
カナダ	6.8	4.8	5.4	1.1	12.5
期末在庫率	20.6%	19.1%	21.4%	0.4	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より10.8百万トン増加（19.1%）し、67.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.2百万トン増加（21.4%）し、35.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、7.3百万トン増加（87.8%）と大幅に積み増しされ、15.6百万トンとなり、期末在庫率も25.0%（11.9ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦は2008/09年度の収穫を終え、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。また、2009/10年度の作付けが始まり、主要18週での進捗は22%と過去5年の平均に比べ8ポイント（前年同時期に比べ2ポイント）遅くなっている。

春小麦の収穫率は97%となっており、過去5年の平均と同じ値であり、前年に比べ3ポイント遅れている。

作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度9.9%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.2%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	67.0	-	19.1
消費量	31.0	29.0	35.2	-	21.4
うち飼料用	3.3	0.8	6.8	-	739.5
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲20.9
輸入量	3.3	3.1	2.7	-	▲11.4
期末在庫量	12.4	8.3	15.6	-	87.8
期末在庫率	22.3%	13.1%	25.0%	0.0	11.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.90	-	10.9
単収(t/ha)	2.60	2.72	2.93	-	7.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

[生育進捗状況（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

冬小麦 作付率 22%（平年差：▲8 p、前年差：▲2 p）

春小麦 収穫率 97%（平年差：±0 p、前年差：▲3 p）

[作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、冬小麦の作柄については6月22日報告のデータ、春小麦の作柄については8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より5.3百万トン増加(26.7%)し、25.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加(29.1%)し、7.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.0百万トン増加(6.1%)し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加(12.5%)し、5.4百万トンとなり、期末在庫率も21.6%(0.1ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が上方修正されたことを受け、生産量が0.4百万トン上方修正されている。生産量の増加に伴い、輸出可能な小麦の量が増大するため、輸出量も0.5百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

春小麦は収穫の時期を迎えている。生育が遅れた2008/09年度は、早霜の影響が懸念されている。さらに、天候に恵まれず収穫作業が進んでいない地域もある。今後も主要産地の天候に注視が必要である。

カナダ西部の一部の地域では、雨天が続いたため冬小麦の収穫が進まず、小麦の品質が低下している。また、霜の被害を受ける可能性も高くなっている。2008年9月3日時点で、冬小麦の収穫率は全体の27%であり、平年の44%を大きく下回っている。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、前年度より9.0百万トン増加(68.7%)し、22.0百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大となると見込まれる。

消費量は、前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(87.4%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.8百万トン増加(48.4%)し、5.7百万トンとなり、期末在庫率も28.5%(0.1ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥が続いたことを受けて単収が下方修正され、生産量が3.0百万トン下方修正された。これに伴い輸出量が1.0百万トン下方修正され、期末在庫量も2.0百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

6月末から7月にかけて降水量が減少し、7月の最終週には降雨があったものの、8月初旬からウエスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州などの主要産地で乾燥が続いており土壌水分が生育に十分な量とはなっていない。冬小麦が今後受粉期を迎えるが、現状の予測を維持するためには、小麦生産地帯全域で今後の十分な降雨が必要である。引き続き天候に注視が必要である。

【我が国の輸入先国シェア2位(2007年数量ベース21.5%)
世界の生産量シェア 6位(2008/09年度 3.8%)
輸出量シェア 3位(2008/09年度14.2%)】

表-3 カナダの小麦需給(市場年度:8月~翌年7月)

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	25.4 (25.4)	0.4	26.7
消費量	8.8	5.9	7.6 (8.2)	▲ 0.1	29.1
うち飼料用	4.4	1.9	3.0 (3.8)	-	58.7
輸出量	19.6	16.5	17.5 (16.7)	0.5	6.1
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 14.3
期末在庫量	6.8	4.8	5.4 (4.5)	1.1	12.5
期末在庫率	23.9%	21.5%	21.6% (18.0%)	4.0	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.00 (9.96)	-	15.7
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.54 (2.55)	0.04	9.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC「Grain and Oilseeds Outlook (September 3, 2008)」

【我が国の輸入先国シェア3位(2007年数量ベース18.0%)
世界の生産量シェア 7位(2008/09年度 3.3%)
輸出量シェア 4位(2008/09年度11.4%)】

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度:10月~翌年9月)

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.0	22.0 (22.5)	▲ 3.0	68.7
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0
輸出量	8.7	7.5	14.0 (15.7)	▲ 1.0	87.4
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.4	3.9	5.7 (…)	▲ 2.0	48.4
期末在庫率	27.3%	28.3%	28.5% (…)	▲ 8.1	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	14.00 (13.55)	-	13.4
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.57 (1.66)	▲ 0.22	48.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より27.8百万トン増加(23.3%)し、147.2百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より14.4百万トン増加(12.2%)し、132.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから6.0百万トン増加(50.0%)し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.7百万トン増加(16.4%)し、12.0百万トンとなり、期末在庫率も8.0%(0.1ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積・単収ともに上方修正されたことを受け、生産量が4.0百万トン上方修正されている。特に、ドイツ、ポーランドでは乾燥懸念が深刻であったが、実際の収穫によって単収が予想以上に高い値であることが判明し、生産量の上方修正に寄与している。また、消費量は1.5百万トン上方修正された。輸出量は、生産量の増大によって輸出可能量が増大したことを受け、2.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

フランス、ドイツでは、雨が続いたことにより収穫が長引いていたが、無事に終了した。ドイツ、ポーランドは乾燥が続いていたが、予想よりも高い単収が得られている。また、雨により、ヨーロッパ北部での小麦の品質低下と、イギリス、アイルランドでの収穫遅れが生じている。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.1百万トン増加(12.1%)し、46.6百万トンとなり、期末在庫率も42.7%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.2百万トン下方修正されたことをうけ、2008/09年度の期末在庫量も0.2百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

中国における小麦の収穫は順調に終了しており、好天に恵まれたことから小麦の品質も高くなっている。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.8%)〕
〔輸出量シェア2位(2008/09年度14.6%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	147.2 (145.9)	4.0	23.3
消費量	125.5	118.1	132.5 (130.9)	1.5	12.2
うち飼料用	60.2	52.8	66.0 (59.0)	1.0	24.9
輸出量	13.9	12.0	18.0 (16.6)	2.5	50.0
輸入量	5.1	7.0	5.0 (6.5)	-	▲ 28.6
期末在庫量	14.0	10.3	12.0 (14.8)	0.0	16.4
期末在庫率	10.1%	7.9%	8.0% (10.0%)	▲ 0.2	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.72	26.70 (…)	0.10	8.0
単収(t/ha)	5.10	4.83	5.51 (…)	0.13	14.1

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.9%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.5)	-	3.8
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (3.0)	-	▲ 29.6
輸入量	0.4	0.1	0.0 (0.1)	-	▲ 40.0
期末在庫量	38.5	41.5	46.6 (…)	▲ 0.2	12.1
期末在庫率	36.7%	38.9%	42.7% (…)	▲ 0.2	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加（2.3%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から2.0百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン上昇（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より10.6百万トン増加（21.5%）し、60.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.8百万トン増加（10.1%）し、41.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.8百万トン増加（14.6%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.9百万トン増加（213.0%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も13.0%（8.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収の上方修正を受け、生産量が3.0百万トン上方修正された。消費量は1.5百万トン上方修正されている。輸出量も、生産量増大等の影響から、0.5百万トン上方修正されている。この結果、期末在庫率は0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の収穫は、9月2日時点で58.0%の進捗率となっている。収穫された小麦の品質は予想より低く、飼料用小麦の割合が増加する見込みである。

【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.6%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	-	3.4
消費量	73.4	75.9	77.6 (…)	-	2.3
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 入 量	6.7	2.0	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	11.7
期末在庫率	6.1%	8.4%	9.2% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	-	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 8.9%） 輸出量シェア4位（2008/09年度11.4%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	60.0 (55.0)	3.0	21.5
消費量	36.4	37.7	41.5 (…)	1.5	10.1
うち飼料用	14.1	15.1	18.0 (…)	1.5	19.6
輸 出 量	10.8	12.2	14.0 (13.0)	0.5	14.6
輸 入 量	0.9	0.4	0.4 (0.6)	▲ 0.1	▲ 9.1
期末在庫量	2.4	2.3	7.2 (…)	0.6	213.0
期末在庫率	5.0%	4.6%	13.0% (…)	0.7	8.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.60 (…)	0.50	8.6
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.26 (…)	0.08	11.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より3.5百万トン減少（▲21.9%）し、12.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから2.5百万トン減少（▲25.0%）し、7.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲53.4%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も3.2%（2.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥した天候が続いていることから収穫面積および単収が下方修正された影響を受け、生産量が1.0百万トン下方修正されている。また、生産量の修正に伴い、輸出量も1.0百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

乾燥が続いており、小麦の生育に悪影響が発生し始めている。また、気温の低下によって、霜の被害も発生している。引き続き天候への注視が必要である。

【貿易情報】

2008年4月から輸出登録手続きの再開を発表したが、輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等がストライキを実施。その後、同制度の関連法案は廃案となった。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より10.6百万トン増加（76.3%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加（8.5%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.8百万トン増加（625.8%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.6百万トン増加（103.9%）し3.1百万トンと増加し、期末在庫率は13.7%（2.8ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、好天に恵まれていることから収穫面積・単収が上方修正され、生産量が2.5百万トン上方修正された。消費量は、飼料用需要を中心に0.8百万トン上方修正された。輸出量も、生産量増大等の影響から、0.5百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の収穫は終了した。十分な降雨があったため、単収が増大し生産量が高い値を示しているが、小麦の品質が低下する結果となった。食用品質の小麦は、2007/08年度は小麦生産量全体の40%であったが、2008/09年度は11%にまで低下する見込みである。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 6.1%）

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.0	12.5 (13.0)	▲ 1.0	▲ 21.9
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	10.0	7.5 (8.6)	▲ 1.0	▲ 25.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	0.0
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.5)	-	▲ 53.4
期末在庫率	2.0%	5.7%	3.2% (3.8%)	0.2	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.29	5.68	4.50 (…)	▲ 0.20	▲ 20.8
単収(t/ha)	2.88	2.82	2.78 (…)	▲ 0.09	▲ 1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

（世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.3%）

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	24.5 (22.5)	2.5	76.3
消費量	11.7	12.9	14.0 (…)	0.8	8.5
うち飼料用	2.1	3.1	4.0 (…)	0.8	29.0
輸出量	3.4	1.2	9.0 (7.5)	0.5	625.8
輸入量	0.1	0.4	0.1 (0.1)	-	▲ 71.4
期末在庫量	1.4	1.5	3.1 (0.0)	1.1	103.9
期末在庫率	9.5%	10.9%	13.7% (…)	4.1	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.00 (…)	0.30	17.6
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.50 (…)	0.22	49.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」